

来年のカメムシ類の被害を抑えるため 秋耕を行いましょう！

令和8年9月 塩谷南那須農業振興事務所

- ・管内で**イネカメムシ**による**不稔**被害が発生しました！
- ・カメムシ類対策として、**収穫後の早期耕うん（秋耕）**を行いましょう！

なぜ秋耕がいいの？

- ・カメムシ類は**再生稲も加害**します。
- ・出穂した再生稲があると、**越冬できる個体数が増加し、翌年の発生量が増える可能性**が高まります！
- ・秋耕し、餌場をなくすことで、カメムシ類対策ができます。



写真1
再生稲を加害するイネカメムシ



写真2 イネカメムシによる
不稔被害（R8.8.20撮影）

**再生稲は、
農薬散布されて
いません。**

秋耕のメリット

- ①カメムシ類やヒメトビウンカ（※）等の害虫の生育場所を減らすことができます。

※イネ縞葉枯病の病原ウイルスを媒介

- ②稲わらの腐熟促進、ガス害対策になります。
- ③難防除性雑草の塊茎を減らすことができます。

➤ イネ縞葉枯病の被害が発生している場所は、イネ縞葉枯病抵抗性品種「とちぎの星」等の作付けを検討しましょう。



写真3 ヒメトビウンカ



写真4 再生稲の黄化

秋耕のポイント

- ・収穫後できるだけ早く耕起を行う
- ・15cm以上を目標にゆっくり荒く起こす
- 稲わらをすき込む前に石灰窒素を20kg/10a施用することで、稲わらの腐熟を促し、地力の増強になります。

※施用した場合は減肥を行いましょう。



イネカメムシの被害



写真5 不稔被害

不稔被害

イネカメムシが出穂期に稲を加害すると**不稔**になり**減収**につながります。



写真6 斑点米被害

斑点米被害

乳熟期に加害すると**基部****斑点米**で品質が低下します。

イネカメムシの生活環

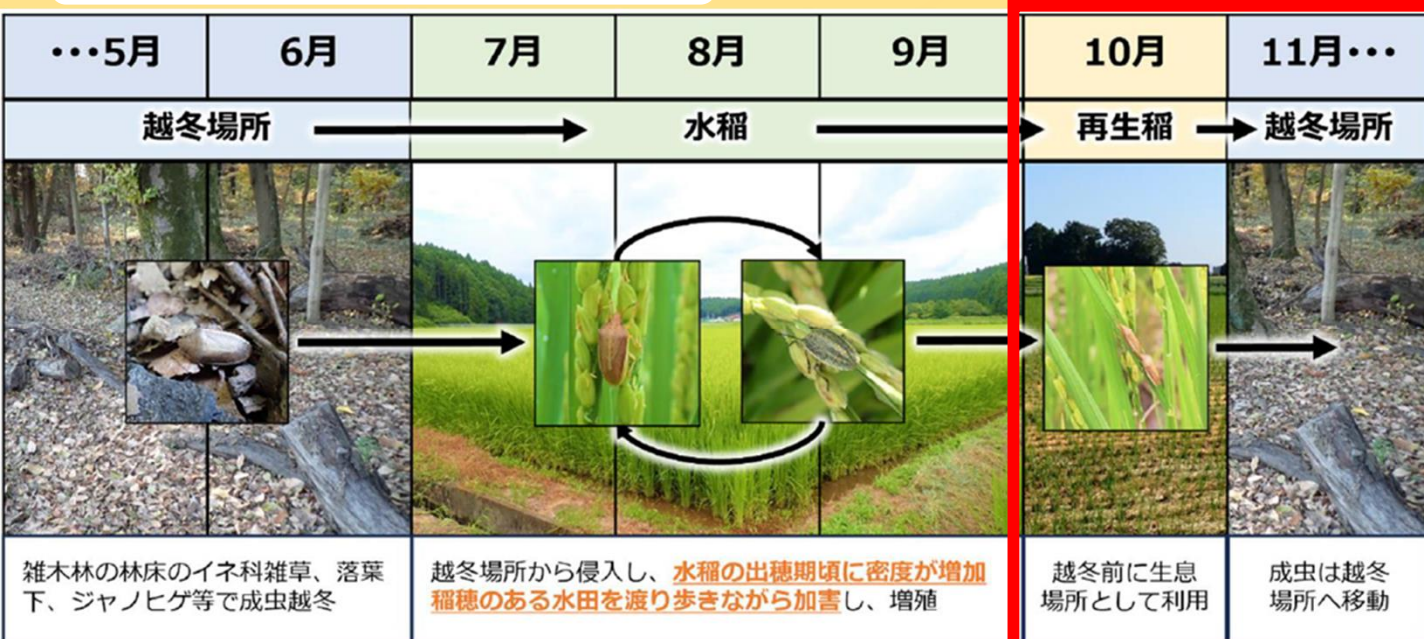


図1 栃木県内での生活環

秋耕は、簡単にできるカメムシ対策の第一歩です。
地域ぐるみで取り組み、斑点米の発生を防ぎましょう！